

 市場価格

ドル建て ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	985.00	2023/6/19
High	986.00	2023/6/19
Low	919.84	2023/6/23
Close	921.90	2023/6/23

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4495.00	2023/6/19
High	4501.00	2023/6/19
Low	4235.00	2023/6/23
Close	4260.00	2023/6/23

ドル建て ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	1414.00	2023/6/19
High	1415.00	2023/6/19
Low	1269.00	2023/6/23
Close	1284.00	2023/6/23

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	6466.00	2023/6/19
High	6470.00	2023/6/19
Low	5857.00	2023/6/23
Close	5953.00	2023/6/23

 ニュースエクスプレス**パラジウムとの代替が進み、プラチナのファンダメンタルズはより良好に- ANZ**

オーストラリア・ニュージーランド銀行のエコノミストらが語るプラチナとパラジウムの展望。

パラジウムよりもプラチナが優位

PGMの中では、パラジウムよりもプラチナが優位であることを強調したい。プラチナ鉱山の生産回復は南アフリカの電力不足で顕著にはいかない一方で、パラジウムは代替と電気自動車普及によって、自動車触媒の需要に影響が及ぶだろう。

年末までにプラチナ価格は1150ドル近くに、パラジウムは1420ドル附近になるだろう。

<https://www.fxstreet.com/news/platinum-fundamentals-look-constructive-due-to-the-ongoing-palladium-to-platinum-substitution-anc-202306161113>

ジョンソン・マッセイが特許を持つ SCARF 技術、厳しい排ガス規制対象のディーゼルの排ガス浄化性能向上へ

ジョンソン・マッセイの SCARFTM 技術とは、ディーゼルの普通乗用車から排気される酸化窒素と粒子状物質の制御を向上させるもの。

コンパクトな設計のため、SCARF 技術は浄化触媒機能が最も効率的に働く高温環境となる車のエンジン近くに設置することができる。

世界的により厳しくなる排ガス規制環境で、次世代の浄化触媒技術の課題が明らかになる中、ジョンソン・マッセイはディーゼルの排ガス中の酸化窒素と粒子状物質をより浄化するSCARF 技術を発表した。

同社の SCARF 技術は最先端もしく選択式還元触媒(SCR)と選択式還元触媒フィルター(SCRF)を特許技術で組み合わせたもの。コンパクトな設計のため高温になるエンジンの近くに設置することができ、選択式還元触媒が急速に温められることで酸化窒素を還元する触媒の最適温度に素早く到達し、排ガスを最小限に抑える。これは特に気温が低い時のエンジンスタートで効率的である。さらに SCRF 部分の保温機能の向上により、より長く過温状態を保つことができ、浄化機能を長く効率的に行うことができる。

新しい排ガス規制によって、実際の運転環境の様々な状況下における有害排気ガスの排出量はさらに制限され、健康に悪いとされる酸化窒素の軽減が焦点の一つ。クリーンで高性能のエンジンは環境には良いが、排気システムに送る熱量が少なくなるケースが多く、これが浄化触媒装置を最適温度で動かすための障害となっている。小型化に成功したジョンソン・マッセイの SCARF 技術は、エンジンから出る熱量を無駄なく、浄化機能の向上に利用できる。

ジョンソン・マッセイのプロダクトライン・ディレクターのLouise Arnold は、「今後の排ガス規制では、低温の運転環境でもさらに厳しい排ガス制御が要求される。我々が技術の開発と向上に取り組んだ結果であるコンパクトな SCARF 技術で、ディーゼル車で、より効率的な酸化窒素と粒子状物質の浄化機能を我々の顧客に提供することができる。」

<https://www.marketscreener.com/quote/stock/JOHNSON-MATTHEY-PLC-25600218/news/johnson-matthey-s-patented-scarf-technology-brings-high-performance-to-tackle-toughest-ever-emission-44375549/>

ジンバブエのプラチナ輸出、マイナス 37%

ジンバブエのプラチナ輸入による今年の収益は 37% 減って 4億1310 万ドルとなる見込み。コモディティ価格の下落と、鉱山セクターに影響を与えた電力問題が背景にあると政府関係者が語った。

<https://www.newsdaily.co.zw/theindependent/local-news/article/200013104/imbabwe-to-see-a-37-dip-in-platinum-exports>

ジンバブエのプラチナ生産、今後の開発計画も開始

インババ・プラチナムのジンバブエでのオペレーションでは三つ目となる選鉱設備の建設に着手し、ジムブラツ鉱山の拡張と古い鉱山から新しい鉱山への移行プロジェクトから採掘された鉱石を加工処理する。2024年まではプラチナ生産が約9トン増え、コロナ以前の水準の15%増になるとされている。ジンバブエではその他にも、Karoプロジェクトが進んでおり、早ければ2024年にも年間2.5トン以上の生産を目指す。また先週、ジンバブエ政府はDarwendaleプロジェクトに1億ドルを投資すると発表した。同プロジェクトはそれまでのジョイントベンチャーのパートナーが手を引いたため、政府が主導権を握ることになった。投資額は全体で約5億ドルとされ、安定採掘が見込まれるのは15年以上先になる。このよきな開発プロジェクト全体で、ジンバブエのプラチナ生産は2023年には4%増えて15.9トンとなり、2019年から12%増えることになる。ジンバブエは世界のプラチナ鉱山供給の1割を担う。

https://www.hereaus.com/media/media/hpm/doc_hpm/precious_metal_update/en_6/Appraisal_20230619.pdf#modymtrd=ejttoPMjAgYjH4WjWkMyWmP5iikXk3qMvUjK5NA

Translated by Kazuko OSAWA

 WPIC直近の活動

今年のプラチナ市場は過去最高の 31.1トンにも上る供給不足と予測される中、WPICは2027年までを視野に入れた予測では、自動車需要を始めとする需要の増加で、年間の供給不足は一貫して増加を辿るとしている。この場合、供給不足を補う鉱山生産やリサイクルの増加には限度があることから、足りない分は地上在庫に頼るようになる。プラチナの地上在庫は供給不足を補うに十分に見えるが、現在のプラチナ価格で入手できるかどうかが鍵。詳しくは「**プラチナ豆知識—供給不足のプラチナ市場**」をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/WPIC_60seconds_Platinum_market_in_deficit_06_21_2023.pdf

イリジウムの供給不足が固体高分子型(PEM)水電解装置の普及の妨げになるとの懸念が市場にあるが、WPICの意見は異なる。イリジウムの不足は水素経済発展の妨げにならず、PEM水電解装置などのプラチナ需要は2030年初めまでに15.6トンの予測。詳しくは「**プラチナ展望6月号II**」をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/933924/WPIC_Platinum_Perspective_6_June_II_2023.pdf



@wpiqsqaen

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資推奨を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。